

KIYO

第205期

営業のご報告

ミニ・ディスクロージャー誌

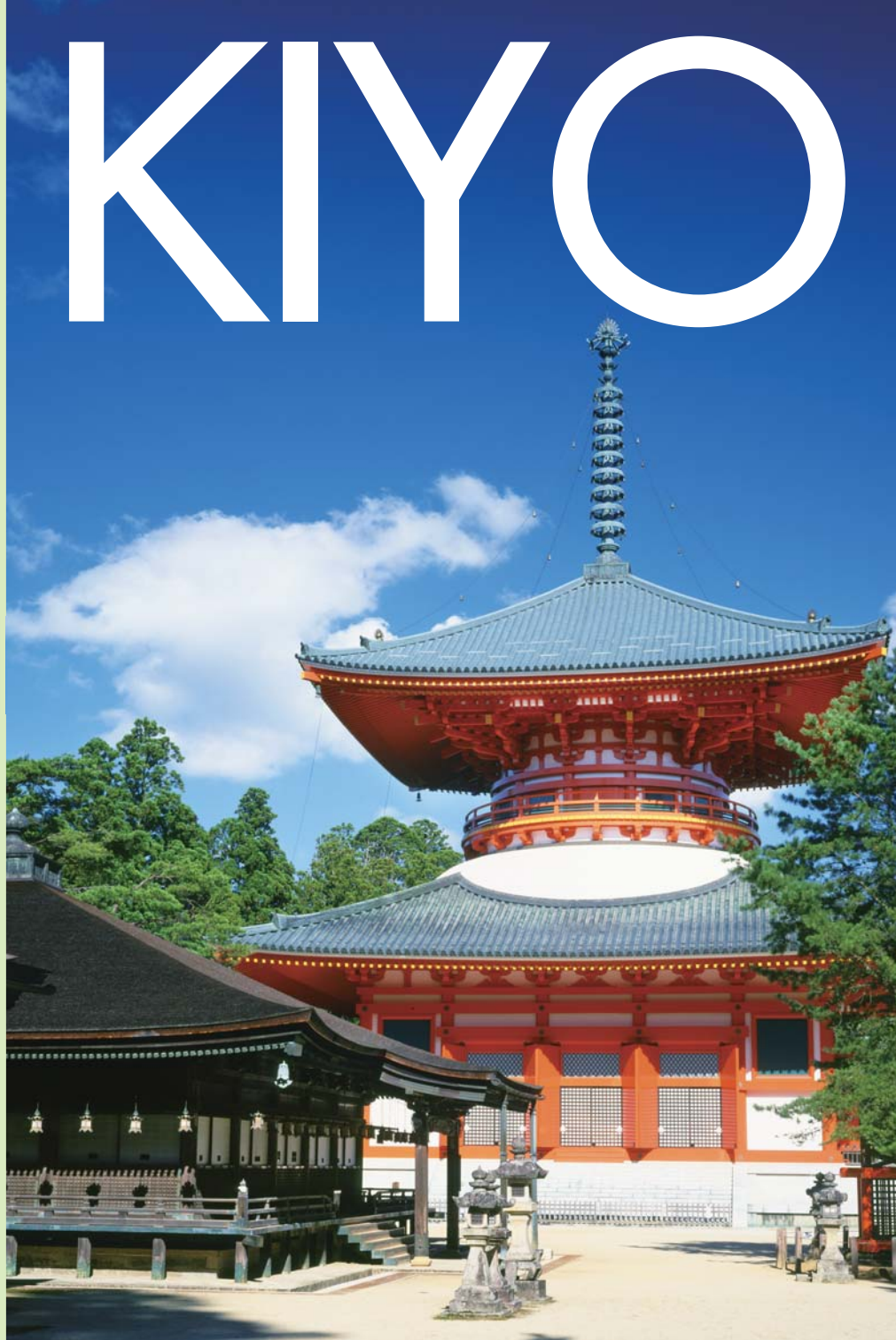
平成26年4月1日から
平成27年3月31日まで

- トピックス
- 地域密着型金融の取り組み
- CSR活動
- 業績ハイライト



銀行をこえる銀行へ

紀陽銀行



ごあいさつ

皆さまには平素より紀陽銀行をはじめ紀陽フィナンシャルグループをお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。紀陽銀行は明治28年に設立され、本年5月2日に創立120周年を迎えることができました。これもひとえに当行を支えていただいたお客さま、株主さま、地域の皆さまからのご支援の賜物であり、役職員一同、心より感謝申し上げます。

このたび「平成27年3月期 ミニ・ディスクロージャー誌」を作成いたしました。業績や最近の取り組み状況などをまとめておりますので、ご一読いただければ幸いに存じます。

昨年度のがわが国経済は、消費税引き上げに伴う駆け込み需要の反動の長期化や、夏の天候不順などの影響により、景気指標の一部に弱さがみられましたが、先進国を中心とした海外経済の回復により輸出や生産が持ち直し、公共投資も高水準で推移しました。また、円安基調が定着するなか、原油価格の下落や株高の進行などを受けて、企業収益改善による設備投資が緩やかに増加するとともに、雇用や所得環境の着実な改善を背景に、景気は緩やかな回復基調を続けました。

当行グループの主要な営業エリアである和歌山県では、世界遺産登録10周年を迎えた「紀伊山地の霊場と参詣道」や「高野山開創1200年記念大法会」など、各地で記念イベント開催などによる集客がみられました。また、大阪府では関西国際空港にて新規就航や路線拡大などが相次ぎ、国際線外国人旅客数が過去最高を記録するとともに、大阪市を中心に高層ビルや宿泊施設建設等の計画・着工が進みました。

このような中、グループの中核会社である紀陽銀行の業績等につきましては、収益基盤の中心となる預金・貸出金とも第3次中期経営計画の目標を上回るなど残高は順調に増加するとともに、損益面につきましても当期の業績予想を上回る利益を計上することができました。

今年度より、新たに制定したブランドスローガン「銀行をこえる銀行へ」を目指す銀行像と定め、長期的な展望に視座を据えた「第4次中期経営計画」がスタートしております。地域経済の浮揚が大きなテーマとなっている中、地域金融機関の役割として地方創生に向けた取り組みが期待されておりますが、今後はこれまで以上に産官学労との連携を深め、地域への活性化に貢献できるよう取り組んでまいります。

120周年という節目を出発点とし、お客さまの期待や地域の壁をこえ、銀行という枠をこえる銀行像の実現に向けて邁進してまいりますので、今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

平成27年6月



取締役頭取 松岡靖之

ミニ・ディスクロージャー誌
平成27年3月期 営業のご報告

目次

※本冊子に記載している計数は、原則として
単位未満を切り捨てて表示しています。

■ ごあいさつ	1	■ CSR活動	9
■ 第4次中期経営計画	2	■ ブランディングプロジェクト	11
■ 創立120周年記念事業	3	■ 業績ハイライト	13
■ トピックス	5	■ 財務諸表	15
■ 地域密着型金融の取り組み	7	■ ネットワーク	17
■ 新しい社会環境への対応のために	8	■ 株式情報	18

第4次中期経営計画

平成36年3月期までの長期的な展望のなかで、新たに目指す銀行像を「銀行をこえる銀行へ」と定め、その実現に向けて邁進してまいります。

紀陽銀行の
目指す銀行像

「銀行をこえる銀行へ」

お客さまの期待や地域の壁をこえ、銀行という枠をこえることを目指します。

第4次中期経営計画における主要テーマ

地元地域(和歌山・大阪)の特性に応じ、明確な地域別戦略のもとで成長速度を高める

「取引先数の増加」に徹底的
にこだわる営業推進

人材育成・登用の強化等による
「成長を支える活力ある組織」づくり

「対取引先」と「対地元地域」という
2本柱による「地域活性化への貢献」

主要戦略

1 永続的に地域を支えるための経営効率向上

- 「預金4兆円」の早期達成
- 店舗チャンネルと営業体制の抜本的見直し
- 計画的かつ積極的な新規店舗・チャンネル投資 など

2 規模を利益につなげる営業推進強化

- 「リレバン型営業の徹底」による貸出先・貸出・収益の増強
- 預かり資産営業体制の強化 など

3 市場における企業評価・ブランド力の向上

- 大阪府内でのプロモーション強化(営業戦略)
- CS向上への取り組みの更なる強化 など

4 経営管理態勢の更なる強化

- コンプライアンスの徹底
- 大規模災害を想定した対策の強化 など

紀陽銀行単体

		平成27年3月期 実績	平成30年3月期 計画
規模	預金等残高(譲渡性預金含む未残)	3兆8,397億円	4兆2,300億円以上
	貸出金残高(未残)	2兆6,681億円	2兆8,400億円以上
	投資信託残高(未残)	1,906億円	2,900億円以上
収益性	実質業務純益(コア業務純益+債券関係損益)	145億円	170億円以上
	当期純利益(連結ベース)	112億円	100億円以上

創立120周年記念事業

紀陽銀行は平成27年5月2日に創立120周年を迎えました。これまで育てていただいたお客さま、株主の皆さま、地域の皆さまに感謝の思いを込めて、120周年記念事業を展開しています。

「感謝」と「躍進」を託したデザイン

120年もの長きにわたり紀陽銀行を支えていただいたお客さま、株主さま、地域社会への「感謝」の気持ち、また、120周年を節目に全行員が一丸となって目指すさらなる「躍進」を基本コンセプトといたしました。

【ロゴマーク】



紀陽銀行のコーポレートカラーであるブルーを用い、120の“0”に、お客さま、株主さま、地域社会への「感謝」の気持ちを表す「リボン」をあしらいました。

～お客さまに向けて～

「120周年定期預金」の取扱い

平成27年4月～9月

4月27日より、「120周年定期預金」の取扱いを開始いたしました。「120周年定期預金」は、「スーパー定期」「スーパー定期300」の店頭表示金利に0.12%を上乗せした特別定期預金です。この定期預金をご購入のお客さまには、抽選でカタログギフト3,000円相当をプレゼントする特典も設けております。

※募集総額300億円に到達次第取扱終了



「コブクロ」ライブ ペアチケットプレゼント

平成27年4月～6月

幅広い年代層にファンを持ち、紀陽銀行のテレビCMにも楽曲を提供している人気デュオ「コブクロ」。4月28日より、紀陽銀行の普通預金口座でお取引のあるお客さまに向けて、コブクロのコンサート「KOBUKURO LIVE TOUR 2015 “奇跡”」のペアチケットのプレゼントキャンペーンを実施しました。



「子供通帳」の取扱い

平成27年4月～28年3月

4月1日より、「子供通帳」の取扱いを開始いたしました。「子供通帳」は、お子さま名義の普通預金口座をご開設いただいたお客さまに、お子さまやご家族の写真をプリントしたオリジナル通帳を作成させていただくサービスで、お子さまの成長記念やご家族の思い出の品としても通帳をお持ちいただけます。

※先着5,000名さまに到達次第取扱終了



～地域社会に向けて～

「さかい利晶の杜」観光セットプレゼント 平成27年5月～6月

平成27年3月、千利休と与謝野晶子をテーマとした文化観光施設「さかい利晶の杜」が堺市に誕生しました。地域の皆さまに、地元文化の魅力を再発見していただくとともに、観光振興に寄与する特別企画として、この「さかい利晶の杜」を拠点とした観光セットプレゼントのキャンペーンを行いました。



「紀陽コンサート」の開催 平成27年9月

紀陽銀行創立120周年・紀陽文化財団創立20周年を記念して、クラシックコンサートを開催いたします。今回は特別に2公演開催とし、9月5日は岸和田市、9月6日は和歌山市において、指揮・飯森範親氏、ヴァイオリン・神尾真由子氏、日本センチュリー交響樂團をお迎えし、地域の皆さまにクラシックの魅力を堪能いただきます。



「世界遺産登録応援定期預金～百舌鳥・古市古墳群～」の取扱い

平成27年4月～9月

4月27日より、「世界遺産登録応援定期預金～百舌鳥・古市古墳群～」の取扱いを開始いたしました。百舌鳥・古市古墳群は、平成27年7月のユネスコ世界遺産センターに登録される日本候補選出を目指しています。今回の「世界遺産登録応援定期預金」は、お客さまからお預け入れいただいた総額の0.01%相当額を、堺市世界文化遺産登録推進基金に寄付させていただき定期預金であり、紀陽銀行の地域密着型社会貢献活動の一環をなすものです。

※募集総額200億円に到達次第取扱終了



～従業員とともに～

女性行員の制服を刷新 平成27年4月

4月1日より、女性行員の制服を刷新いたしました。女性行員で結成した制服リニューアルチームや、行内アンケートによって検討を重ねた新制服のメインコンセプトは、「愛される」制服。冬用・夏用ともに、プロフェッショナルとして生き活きと働くことができる機能性とお客さまに信頼感・親しみやすさを感じていただけるデザインを目指しました。新たなブランドスローガン「銀行をこえる銀行へ」にふさわしい上品で爽やかなイメージの制服となっています。



その他の記念事業

■「ブレ120周年定期預金」の取扱い

…平成26年11月～27年3月

■「紀陽創業者支援ローン」の創設…平成27年4月～

■「紀の国わかやま国体・大会」ボランティア参加

…平成27年6月・9月・10月

■「120年史」の発刊…平成28年3月

トピックス

Oct. 2014

10月

「紀陽教育カードローン」の取扱い

10月8日から、教育資金ニーズが高まる時期に合わせて「紀陽教育カードローン」の取扱いを開始いたしました。「紀陽教育カードローン」は、在学期間中は専用ローンカードでATMにて自由にお借り入れとご返済が可能で、毎月の定例返済はお利息のみ、さらにご卒業後のご返済専用期間は最長8年間というご利用メリットの大きい商品です。授業料、入学資金、下宿代などさまざまな教育資金をサポートする便利なローンとして、ご好評をいただいております。



「岩出支店」が 新築移転オープン

10月14日、岩出支店が新築移転オープンいたしました。和歌山県北部の旗艦店舗の一つである岩出支店は、店内の老朽化が進んでいたため、お客さまの利便性改善を図って新しく生まれ変わりました。

新店舗はロビーが広がり、プライバシーに配慮した窓口や専用ブースも増設し、ゆったりとした空間で資産運用、ご融資などのご相談を承ることができます。また、専用の個室で、休日でもご利用いただける全自動貸金庫も新たに設置いたしております。

これからも、お客さまとの最も大切な接点である店舗の充実に力を注いでまいります。



Nov. 2014

11月

「LINE@」を利用した 情報配信の開始

「友だち登録」をいただいた方に、暮らしに役立つタイムリーな情報を配信できるスマートフォン用コミュニケーションアプリ「LINE@」。

紀陽銀行では、11月20日から「LINE@」のアカウントを開設いたしました。お得なキャンペーンのお知らせ、地域の耳寄りニュースなど多彩な情報の配信によって皆さまのご好評をいただき、平成27年3月にはLINE@友だち登録者2,500人を突破いたしました。

「銀行をこえる銀行へ」を新たなスローガンとする紀陽銀行は、より時代性に富んだサービスをお客さまに提供すべく、さまざまな取り組みに挑んでまいります。



Dec. 2014

12月

「環境配慮型融資」
の取扱い

12月1日から、「環境配慮型融資」の取扱いをいたしました。「環境配慮型融資」は、二酸化炭素(CO₂)の排出量削減など、環境に配慮した設備投資を計画されている企業の取り組みに対して「環境格付」を行うことによって、金利優遇を実施する商品です。

地域経済の発展サポートと環境保全への取り組みは、ともに紀陽銀行がめざしている重要なテーマです。

Feb. 2015

2月

富田林支店が
新築移転オープン

2月16日、富田林支店が新築移転オープンいたしました。富田林支店は、昨年10月に河内長野支店の2階にランチ・イン・ランチ(一つの店舗で2支店が営業)方式で営業を開始しておりましたが、新店舗の竣工を迎え、近鉄長野線富田林西口駅近くに新築移転し、新たなスタートを切りました。

富田林市への初出店となった新店舗は、プライバシー配慮型の窓口や簡易応接室などを備え、ゆったりと落ち着いた雰囲気でお客さまのご相談を承えることができます。また、住宅ローンセンターも併設しております。



Jan. 2015

1月

ATMの利便性向上



1月28日から、株式会社イーネットとのATM提携によって、全国のファミリーマート、サークルKサンクス、デイリーヤマザキなどのイーネットロゴマークのコンビニATMで、紀陽銀行キャッシュカードによるお取り扱いが可能になりました。すでに提携しているローソンATM、セブン銀行ATMとともに、コンビニATMによる紀陽銀行のご利用がますます便利になりました。

また、昨年12月より、当行ATMの営業時間拡大を実施し、平日・休日にかかわらず原則午前7時～午後9時といたしました。(一部ATMを除く)

Mar. 2015

3月

企業と学生の
出会いの場を提供

2月14日、あべのハルカスにおいて、大阪府中小企業団体中央会、一般財団法人大阪労働協会との共同主催による「就活ソニックinハルカス」を開催いたしました。

紀陽銀行のお取引先を含む46社によるご出展と、就職活動を目にした学生の皆さま753名にご参加をいただき、実りある出会いの場をご提供することができました。

また、3月7日には、提携先である和歌山工業高等専門学校にて、合同企業説明会を開催し、紀陽銀行のお取引先53社が約160名の学生の皆さまに向けて熱心な企業PRを行いました。



地域密着型金融の取り組み

地域金融機関として、法人・個人事業主の皆さまへの支援と地域経済発展をサポートする取り組みを行っています。

6次産業化へのサポート

地域の農林水産分野の成長を支援し、関連する産業と連携して地域の活性化を図ることを目指し、平成26年に「紀陽6次産業化ファンド」を設立いたしました。27年6月には第1号案件として、新宮市の「株式会社食縁（しょくえん）」に投資を実行。国内養殖魚をフィレ加工、機能性フィルムで包装・凍結し、海外に輸出する事業のサポートをしています。

事業承継のサポート

後継者の確保などにはじまる円滑な事業承継は、中小企業経営者の皆さまにとって重要な課題です。また、資産相続には法的な知識や財産運用について事前準備が必要です。これらの課題解決支援のための「事業承継セミナー」を開催しています。平成26年11月、平成27年3月に実施したセミナーにおいても、多数の事例による具体的なレクチャーでご好評をいただきました。



海外ビジネス活動のサポート

海外進出に向けたお客さまの課題解決に対する支援強化を目的とした「グローバル・サポート・デスク」を設置し、公的機関やコンサルティング会社などの外部専門家との提携により相談会や商談会を実施。中国、インド、東南アジアの国々などの市場環境やパートナー企業などの情報をご提供しています。

また、台湾、フィリピン、ベトナムなどの有力金融機関と業務提携を結び、経済情報や現地での資金調達のサポートを行うとともに、株式会社日本政策金融公庫との契約締結によって、お客さまに対して現地通貨建ての資金調達ができるよう支援も行っています。



産官学連携の推進

産官学のネットワークを活用した地域経済の活性化につながる各種取り組みに力を注いでいます。平成27年2月、和歌山県立医科大学との連携プロジェクト、異業種交流会「わかやま医工連携セミナー」を開催いたしました。また、4月には、和歌山市と「産業振興に係る連携協力に関する協定」を締結いたしました。

平成23年より提携している近畿大学とは、大学の研究ノウハウをお取引先の企業が活用できる仕組みを共同で作り上げています。

また、お取引先さまからのご依頼により、「高野山開創1200年記念大法会」のサポーターとして、和歌山大学観光学部の学生の皆さまをご紹介します。



新しい社会環境への対応のために

地域社会の安心・安全や従業員のワークスタイルなど、時代の変化にあわせた積極的かつ柔軟な取り組みを行っています。

BCP(事業継続計画)の推進

紀陽銀行の営業エリアである和歌山県・大阪府は「南海トラフ巨大地震」や「東海・東南海・南海3連動地震」により甚大な被害が予想されている地域であり、本格的な災害対策や、BCP(事業継続計画)が急務とされています。

紀陽銀行では、主要店舗における災害時に備えた自家発電機の設置や、全行員を対象とした「防災ハンドブック」の配付、定期的な訓練実施等、ハードとソフト両面の対応に積極的に取り組んでいます。

また、行内の対応だけでなく、平成27年4月には和歌山県内の他の金融機関と連携し、「大規模災害時における和歌山県内金融機関の相互支援に関する協定」を締結いたしました。

一方、お客さま向けの取り組みとして、平成27年1月と3月には「大規模地震対応模擬訓練」を実施し、企業や地方自治体のご担当者をはじめ、多数の皆さまにご参加をいただきました。

また、平成26年10月から、地域事業者の皆さまのBCP策定費用や、避難施設の建築費用などをサポートする「南海トラフ地震対策ローン」の取扱いを開始いたしました。



ダイバーシティの推進

ダイバーシティ (diversity) とは、性別など従業員それぞれの違いを尊重し、積極的に生かすことにより企業価値を向上させる取り組みです。紀陽銀行では、かねてより女性の積極的登用をはじめとする「ポジティブ・アクション」を推進し、仕事と育児の両立支援、仕事と生活の調和がとれたワーク・ライフ・バランスの推奨などに努めてきました。こういった取り組みに対して、和歌山労働局からは「子育てサポート企業」としての認定を受けて「くるみんマーク」を取得しており、また厚生労働省主催の「均等・両立推進企業表彰」において和歌山労働局長優良賞を受賞するなど、高い評価をいただいております。

平成27年1月には、人事部に「ダイバーシティ推進室」を設置し、「多様な人材が自身の能力を最大限に活かす環境を整備し、組織力の強化を図る」という考え方のもとで、さまざまな取り組みを行っております。育児休業中の行員の職場復帰を支援するための「女性のカジュアルミーティング」の開催、仕事と育児の両立を支援するための諸制度の整備など、より働きやすい環境づくりに努めてまいります。



CSR活動

紀陽フィナンシャルグループでは、数々の社会貢献活動に取り組んでおります。

環境保全への取り組み



地域の美しい自然を未来に… 和歌山県「企業の森」事業

和歌山県が森林の環境保全を目的に実施している「企業の森」事業。紀陽銀行も平成18年よりこの事業に参画しております。毎年、行内にてボランティア参加者を募り、和歌山県日高川町の「紀陽の森」において森林の保全活動に努めています。



自然遺産を明日に伝える… 熊野古道の参詣道環境保全活動

和歌山県が誇る「世界遺産」熊野古道は、台風や雨の被害にたびたび見舞われています。紀陽銀行では、熊野古道の参詣道修復のために、役職員参加のボランティアによる道普請（土の補充）を中心とした活動を続けています。

バリアフリーへの取り組み

安心して暮らせる社会のために… 障がいのあるお客さまへの対応

紀陽銀行では、目の不自由な方にもテンキーの操作によりご利用いただけるよう、すべてのATMに音声誘導付きの受話器型附属機器を設置しています。また、視覚障がいのあるお客さま向けに、お取引明細などの点字通知サービスを実施する一方、耳の不自由な方にも安心してご利用いただけるよう、耳マーク表示板とコミュニケーションボードを全店に設置しています。



コミュニケーションボード



耳マーク表示板

高齢化社会へ向け… 「認知症サポーター」の養成

高齢化社会が進むなか、行員が認知症に対する理解を深めることによって、認知症の方やそのご家族が安心して暮らせる社会に貢献できるよう、「認知症サポーター」の養成に努めています。



芸術・文化・スポーツを通じた取り組み



芸術による感動の輪を広げる…

一般財団法人 紀陽文化財団

優れた芸術と文化の普及による豊かな地域社会の創造を目指して、平成7年に設立された一般財団法人紀陽文化財団。同財団では、地域の皆さまをさまざまな文化イベントにお招きしています。なかでも、和歌山県立近代美術館、博物館で開催される特別展などへの無料ご招待は、毎回ご好評をいただいております。また、著名な指揮者や演奏家を招いての「紀陽コンサート」も毎年開催しております。



スポーツの楽しさをわかちあう…

バスケットボールクリニック(ジュニアへの指導)

紀陽銀行の女子バスケットボール部「紀陽ハートビーツ」は、地元の小中学生を対象としたバスケットボールクリニック(ジュニアへの指導)を展開しております。これからもスポーツの楽しさをわかちあい、地元に愛されるチームとして活動してまいります。



地域の金融教育への取り組み



現場から経済学を発信…

和歌山大学、和歌山高専での講義

和歌山県が実施している「産業人材育成支援事業」の一環として、和歌山大学で当行の役員が「和歌山企業トップ経営論」の講義を行っております。

また、和歌山工業高等専門学校においても、「企業実践講座」と題し、行員が講義を行っております。



高校生にお金の基本を啓蒙…

金銭基礎教育授業「MoneyConnection®」

若い世代への金融教育の一環として、金銭基礎教育授業「MoneyConnection®」へ協賛しております。「MoneyConnection®」の公認実施団体である特定非営利活動法人キャリア・ファシリテーター協会との協力によって、高校生を対象に認定講師による出張授業を行い、「働き、生活することとお金」について学ぶ機会を提供しております。

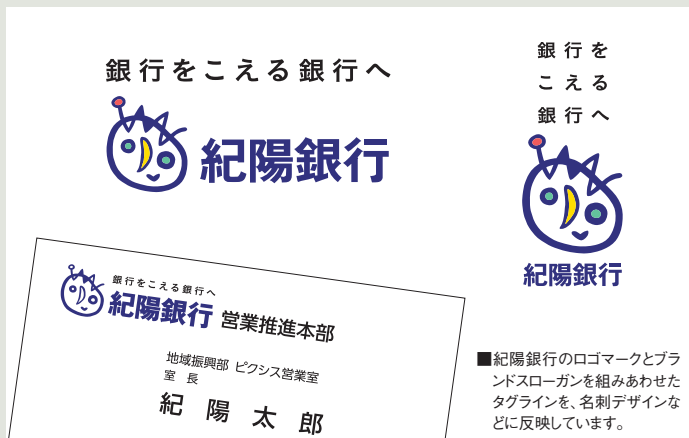


ブランディングプロジェクト

紀陽銀行では、創立120周年を迎えての新たな決意表明とブランドイメージ向上を図るため、ブランディングプロジェクトに取り組みました。さまざまなメディアやイベント、またお客さまとの日頃のおつきあいを通じて、私たちの思いと未来像をお伝えしてまいります。

新ブランドスローガンに決意を託して

これから紀陽銀行が目指すべき理想像を、行内外に発信していくための「ブランドスローガン」を作成いたしました。生活者の皆さまへのアンケート結果などもふまえ、お客さまに届く言葉を選定し、作成したスローガンが「銀行をこえる銀行へ」です。平成27年1月より、メディアや本支店を通じて発信しております。



ブランドステートメントで思いをより深く

「ブランドステートメント」は「ブランドスローガン」の方向性をさらに具体的に語り、当行の活動の拠り所とするとともに、お客さまにもご理解いただくものです。

今回、「ブランドスローガン」とともに制定し、ポスターなどにも掲載しております。

■ブランドステートメント ※全文中の一部を掲載

いつでもお客さまのそばへ飛んでいこう、と思う。
地元を、盛りあげようとする人がいる。
ならば私たちは、
その人の理想をかなえる力になろう。
どんな課題にも、本気で向き合い
そこまでやるかと言ってもらえる銀行に。
わたしたちは、お客さまの期待を、こえてゆきたい。

若者に向けたブランドイメージ発信を開始 ～FM802でのスポンサー事業～

オリジナル番組を提供

大阪のFMラジオ局「FM802」の人気ワイドプログラム「SATURDAY AMUSIC ISLANDS ～MORNING EDITION～」内で、当行提供によるオリジナル番組「紀陽銀行 HAPPY BRUNCH」をスタートさせました（平成27年3月7日より放送開始）。楽しい音楽とトークにより、リスナーの方々のブランチャタイムに元氣をお届けしています。



田中理恵さんを起用し、 ブランドイメージを鮮やかに発信



当行のイメージキャラクターとして、和歌山県出身の元体操選手、田中理恵さんを起用いたしました。田中さんは、世界選手権で、最も美しい演技で観客を魅了した選手に贈られる「ロンジン・エレガンス賞」を日本人女性として初受賞し、2012年全日本選手権個人総合・NHK杯で優勝。目標へ突き進む力強い姿勢と明るくひたむきな人柄が、当行のイメージと重なります。



また、田中さんが出演する新しいブランドイメージCMを、平成27年1月からテレビ和歌山、関西テレビ、毎日放送にて放映いたしました。田中さんをメインに紀陽銀行の行員も出演、全員が空高くジャンプする姿に、「お客さまの期待をこえていこう」という当行の決意を託しました。BGMには「コブクロ」の「陽だまりの道」を採用いたしました。コブクロのお二人は、デビュー前から和歌山県で数多くライブ活動を行っている、県内にゆかりの深いアーティストです。

また、1月5日の日本経済新聞にCMと同じビジュアルの企業広告を掲載。各支店ではポスターを掲出するなど、幅広くPRを展開いたしました。



テレビCM

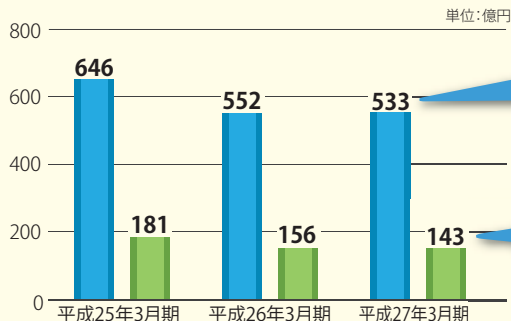
人気ライブイベントの冠スポンサーに

「FM802」が主催する旬のアーティストによるライブイベント「REQUESTAGE13(リクエストージ)」に、紀陽銀行が冠スポンサーとして協賛いたしました(大阪城ホールにて平成27年4月29日開催)。毎回観客1万人を動員、チケットが即完売となる人気イベントで、今回はきやりーぱみゅぱみゅやASIAN KUNG-FU GENERATIONらが出演。紀陽銀行の新しいイメージをヤング層に広く発信いたしました。



業績ハイライト

貸出金利息は市場金利の低下の影響を受け減少しましたが、役務取引等利益は前期比1億円の増加となりました。債券関係損益が16億円減少したため、業務粗利益は前期比19億円減少の533億円となりました。また、コア業務純益は前期比13億円減少の143億円となりました。



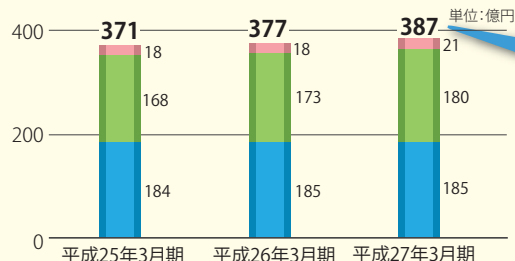
業務粗利益 (単体)

533億円

コア業務純益 (単体)

143億円

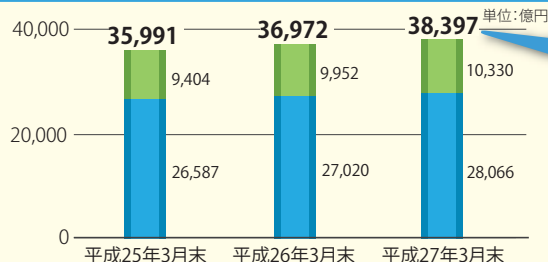
経費については、物件費が増加し経費全体で前期比10億円増加の387億円となりました。



経費

387億円

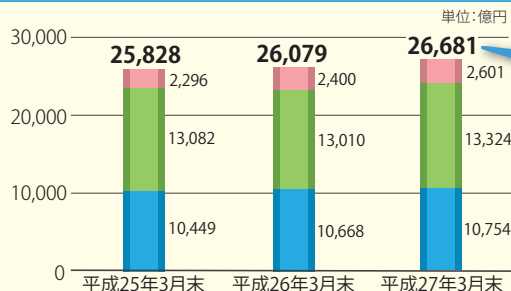
預金等残高は個人預金とその他預金ともに増加し、前期末比1,425億円増加の3兆8,397億円となりました。



預金等残高 (単体)

3兆8,397億円

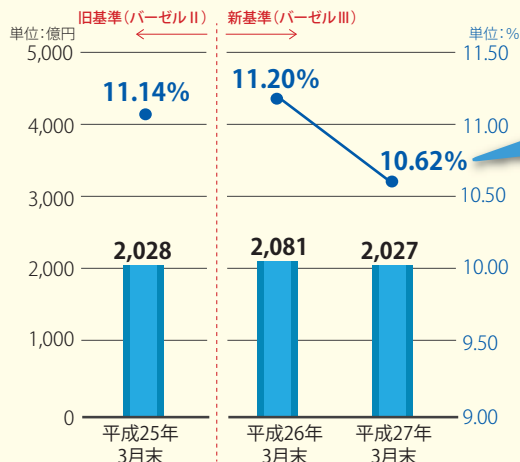
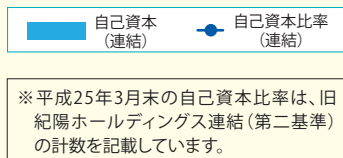
貸出金残高は、前期末比602億円増加の2兆6,681億円となりました。



貸出金残高 (単体)

2兆6,681億円

平成26年3月末より新たな自己資本比率規制（バーゼルⅢ）を適用しており、自己資本額（連結）は2,027億円となり、自己資本比率（連結）は10.62%となりました。



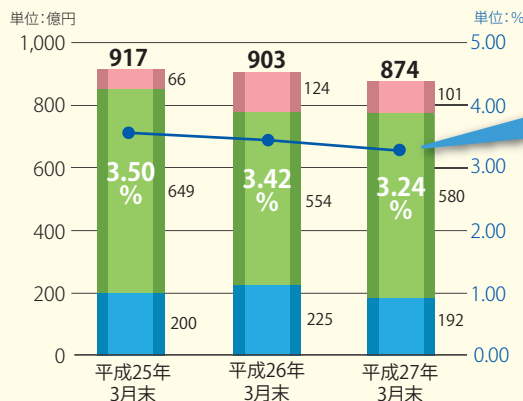
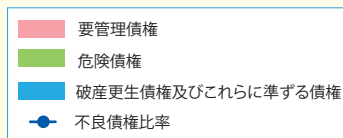
自己資本比率（連結）

10.62%

自己資本比率（単体）

10.28%

不良債権残高は前期末比29億円減少し、874億円となりました。不良債権比率については、前期末比0.18%低下の3.24%となりました。不良債権額874億円のうち、84.1%は、担保や引当金等で保全されています。



不良債権比率

3.24%

用語解説

●要管理債権

3ヵ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権

●危険債権

債務者は経営破綻の状態に至っていないが、財務状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取ができない可能性の高い債権

●破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権

●外部格付

外部格付とは、第三者の格付機関が、銀行や企業の「安全度」をランク付したものです。

外部格付

A (JCR)

A- (R&I)

紀陽銀行では、株式会社日本格付研究所（JCR）と株式会社格付投資情報センター（R&I）から格付上位のAランクを取得しています。

財務諸表

紀陽銀行(連結)

第205期末 連結貸借対照表

(平成27年3月31日現在)

単位:百万円

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
現金預け金	253,855	預金	3,726,920
コールローン及び買入手形	5,000	譲渡性預金	98,307
買入金銭債権	799	債券貸借取引受入担保金	116,614
商品有価証券	514	借入金	39,337
有価証券	1,282,793	外国為替	97
貸出金	2,660,393	社債	20,000
外国為替	3,215	その他負債	37,279
その他資産	21,983	退職給付に係る負債	27
有形固定資産	36,035	役員退職慰労引当金	32
無形固定資産	6,923	睡眠預金払戻損失引当金	890
退職給付に係る資産	19,130	偶発損失引当金	533
繰延税金資産	1,026	繰延税金負債	10,981
支払承諾見返	11,538	支払承諾	11,538
貸倒引当金	△ 25,378	負債の部合計	4,062,560
		(純資産の部)	
		資本金	80,096
		資本剰余金	6,941
		利益剰余金	77,751
		自己株式	△ 2,115
		株主資本合計	162,674
		その他有価証券評価差額金	40,691
		繰延ヘッジ損益	△ 410
		退職給付に係る調整累計額	9,270
		その他の包括利益累計額合計	49,550
		少数株主持分	3,044
		純資産の部合計	215,269
資産の部合計	4,277,830	負債及び純資産の部合計	4,277,830

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

第205期 連結損益計算書

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

単位:百万円

科 目	金 額
経常収益	74,275
資金運用収益	52,583
(うち貸出金利息)	(39,137)
(うち有価証券利息配当金)	(13,037)
役務取引等収益	11,579
その他業務収益	6,369
その他経常収益	3,743
経常費用	59,020
資金調達費用	4,043
(うち預金利息)	(2,843)
役務取引等費用	4,175
その他業務費用	4,917
営業経費	41,462
その他経常費用	4,421
経常利益	15,255
特別利益	10
特別損失	216
税金等調整前当期純利益	15,049
法人税、住民税及び事業税	405
法人税等調整額	3,223
法人税等合計	3,629
少数株主損益調整前当期純利益	11,419
少数株主利益	148
当期純利益	11,270

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

- | | | |
|-------|-------------------|------------------|
| 連結子会社 | ・ 紀陽ビジネスサービス株式会社 | ・ 株式会社紀陽カード |
| | ・ 阪和信用保証株式会社 | ・ 株式会社紀陽カードディーシー |
| | ・ 紀陽リース・キャピタル株式会社 | ・ 紀陽情報システム株式会社 |

紀陽銀行(単体)

第205期末 貸借対照表

(平成27年3月31日現在)

単位:百万円		単位:百万円	
科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
現金預け金	253,709	預金	3,732,412
コールローン	5,000	譲渡性預金	107,307
買入金銭債権	799	債券貸借取引受入担保金	116,614
商品有価証券	514	借入金	39,337
有価証券	1,285,164	外国為替	97
貸出金	2,668,105	社債	20,000
外国為替	3,215	その他負債	28,191
その他資産	7,786	役員退職慰労引当金	32
有形固定資産	36,543	睡眠預金払戻損失引当金	890
無形固定資産	5,240	偶発損失引当金	533
前払年金費用	5,487	繰延税金負債	6,534
繰延税金資産	—	再評価に係る繰延税金負債	128
支払承諾見返	11,538	支払承諾	11,538
貸倒引当金	△ 21,764	負債の部合計	4,063,618
		(純資産の部)	
		資本金	80,096
		資本剰余金	5,284
		資本準備金	259
		その他資本剰余金	5,024
		利益剰余金	74,113
		利益準備金	4,096
		その他利益剰余金	70,017
		繰越利益剰余金	70,017
		自己株式	△ 2,115
		株主資本合計	157,379
		その他有価証券評価差額金	40,477
		繰延ヘッジ損益	△ 410
		土地再評価差額金	273
		評価・換算差額等合計	40,341
		純資産の部合計	197,721
資産の部合計	4,261,339	負債及び純資産の部合計	4,261,339

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

第205期 損益計算書

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

単位:百万円	
科 目	金 額
経常収益	66,134
資金運用収益	52,553
(うち貸出金利息)	(39,117)
(うち有価証券利息配当金)	(13,028)
役務取引等収益	9,273
その他業務収益	1,228
その他経常収益	3,078
経常費用	50,555
資金調達費用	4,044
(うち預金利息)	(2,843)
役務取引等費用	4,910
その他業務費用	738
営業経費	37,872
その他経常費用	2,989
経常利益	15,578
特別利益	10
特別損失	225
税引前当期純利益	15,364
法人税、住民税及び事業税	189
法人税等調整額	2,856
法人税等合計	3,046
当期純利益	12,317

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

役員一覧

(平成27年6月26日現在)

取締役会長(代表取締役)	片 山 博 臣	取締役	竹 中 義 人	監査役(非常勤・社外監査役)	松 川 雅 典
取締役頭取(代表取締役)	松 岡 靖 之	取締役	日 野 和 彦	監査役(非常勤・社外監査役)	大 平 勝 之
専務取締役	成 田 幸 夫	取締役	明 樂 泰 彦	監査役(非常勤・社外監査役)	山 野 裕
常務取締役	島 慶 司	取締役(社外取締役)	水 野 八 朗		
常務取締役	爲 岡 英 喜	監査役(常勤)	樋 口 勝 二		
常務取締役	今 村 裕 一	監査役(常勤)	北 山 隆 一		

株式情報

(株式会社紀陽銀行・平成27年3月31日現在)

■発行済株式総数

普通株式 73,399,948株

■株主総数

普通株式 20,255名

■配当方針

利益配分につきましては、銀行の公共性に鑑み、経営の健全性を確保するための適正な内部留保を確保しつつ、安定的な配当を実現することを基本方針としています。

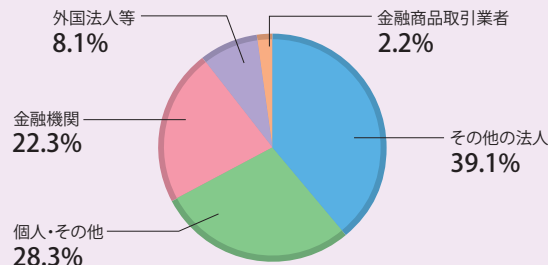
■株主名簿管理人

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

■株式事務取扱場所

大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社大阪証券代行部
電話 0120-094-777 (通話無料)

■所有者別株式分布 (平成27年3月31日現在)



■大株主の状況

氏名又は名称	持株数等(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,002	2.78
紀陽フィナンシャルグループ従業員持株会	1,772	2.46
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,616	2.25
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,200	1.66
株式会社 湊組	1,042	1.45
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	895	1.24
株式会社島精機製作所	839	1.16
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	818	1.13
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口2)	809	1.12
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	806	1.12

- (注) 1. 持株数等は、千株未満を切り捨てて表示しています。
2. 当行は、自己株式1,539,824株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。
また、持株比率は自己株式を控除して算出し、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

株式に関する各種お手続き

届出住所・姓名などの変更、配当金の振込先の指定または変更につきましては、口座開設されている証券会社(証券会社に口座開設されていない株主さまは、上記の三菱UFJ信託銀行株式会社大阪証券代行部)へ届け出ください。

単元未満株式をお持ちの皆さまへ

1単元(100株)未満の株式を保有されている株主さまは、保有株式の買い取り請求または単元株への買い増し請求をしていただくことができます。詳細につきましては、上記(株式事務取扱場所)までお問い合わせください。
(追記) なお、お手続きに必要な書類等については、下記のホームページにお入りいただき、検索することができます。

[三菱UFJ信託銀行HP <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>]

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、見通しと異なる可能性があることにご留意ください。



紀陽フィナンシャルグループは、2015紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会を応援します。



株式会社 紀陽銀行

平成27年6月発行

経営企画部 広報・CSR推進室

〒640-8656 和歌山市本町1丁目35番地

TEL.073-426-7133

<http://www.kiyobank.co.jp/>

表紙写真：高野山 根本大塔(高野町)

高野山は、平安時代のはじめ、弘法大師によって開かれた日本仏教の一大聖地です。今年は開創1200年の節目の年を迎え、さまざまな行事が執り行われています。